

フランクさんの「ソナタ」、伸び伸び大きく穏やかに、ケレンミなくごく自然に堂々と。少し遅めで丁寧な表現、落ち着きゆったり平穩に支配。多様な感情や思いを盛り込んでの展開、コンセントリーションの持続、大らかなスペースの形成、互いに出しゃばることなく。なか睦まじく和気藹々、静穩なスタンスをアピール。2楽章では怒り、それが両ソリストの目論見、でもお互いの思いやりあふれ、丁々発止のバトルは希薄。思い描くイメージに向け、一つ一つクリアそして高揚、長丁場を全う、嬉しそうな達成感。ネクラでネガティブな作曲家、私だけの思い込みかしら。

サンサーンスさんの「トッカータ」、爽快な飛び跳ね、これでもかの畳み掛け、ねじ巻きハイテンション。手をかえ品をかえ至る所での邁進、微細なパーツにまでピアニストの息、コミカルでユーモラス・タッチ。ヨーイドンのスタート、当初からバリバリ元気ジルシ、僅かな狂い、瞬時にアドレナリン全開の難しさ。ピアコン5番がモチーフとのこと、残念だが未聴。今日の作品、アーニー・ダルコさんのレコード、ほとんど覚えていないが。

イザイさんの「無伴奏ソナタ」から、髪を振り乱したり何もなかったり、どちらかと言えば思いつくまま、刹那的つぎはぎストラクチャー。難しい奏法の駆使、大変そう。2番ソナタの4楽章、復習の女神たちとのこと、表題付きなので理解の手助け、先の見えないことの回避、イメージの見える化、怖いとのメッセージが伝わってくる。この作品をチョイス、後半のフランクさんとの繋がり、ベルギー同郷とソナタ献呈。

クライスラーさんの作品、アンコールを含め4曲、市民権がある作品。ヴァイオリニストにとっても馴染み、余裕をもった無難さと素直さがベース、メッセージ彩りを吹き込む。「愛の喜び」の7、8小節目の音処理、何度も出現するが、お終いから2番目と3番目の対処が私の好み。(2015.10.6)

---

クライスラー：テンポ・ディ・メヌエット

クライスラー：美しきロスマリン

マスネ：タイスの瞑想曲

イザイ：無伴奏ヴァイオリンソナタ 2番 イ短調 Op.27-2から 4楽章

サン＝サーンス：トッカータ(練習曲 へ長調 Op.111-6)

フランク：ヴァイオリンソナタ イ長調

(アンコール)

---

---

クライスラー：愛の悲しみ

クライスラー：愛の喜び

---